

「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 地域日本語教育コーディネーター研修について

「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 地域日本語教育コーディネーター研修 実施要項

平成23年8月29日
文化部長決定

1 趣旨

地域において日本語指導者に対する指導的な立場を果たすことが期待されている者等を対象に、多文化共生社会の基盤づくりに資する日本語教育を推進する専門の人材としての「地域日本語教育コーディネーター」に必要な能力について理解を深め、その向上を図ることを目的とした研修を開催する。

2 主催

文化庁

3 研修期間

年2回、計3日間の研修とする。

4 対象者

次のいずれかに該当する者で、地域日本語教育に関する経験を3年以上有し、地方自治体（都道府県及び市区町村、教育委員会を含む）、地方自治体が設置した国際交流協会又は社会福祉協議会が推薦する者。

- (1) 地域において日本語指導者に対する指導的な役割を果たすことが期待されている者、又は指導的な立場にある者。
- (2) 地方自治体・国際交流協会・地域の日本語教室等で日本語教育プログラムの編成に携わっている者。

5 定員

20名（受講希望者多数の場合は、本研修の趣旨等を考慮の上、選考を行う。）

6 内容

本研修は、地域における日本語教育に関する現状把握、課題設定、課題解決等に必要な内容について、実践活動等を踏まえながら扱う。内容の詳細については、別に設置する企画・評価会議の意見を踏まえて定めるものとする。

7 その他

その他、本研修の実施に関わる詳細については、別に定める。

※以下、募集案内等からコーディネーター研修の目的、講師、研修の内容を抜粋

1. 目的

地域において日本語指導者に対する指導的な立場を果たすことが期待されている者等を対象とした研修を行い、地域日本語教育コーディネーターに求められること（①～⑤）と、そのために必要な能力について理解を深め、「地域日本語教育のデザイン力」の向上を図る。

- ①【問題把握・課題設定】地域日本語教室の現状と問題を把握し、課題を設定する力
- ②【ファシリテーション】課題解決のプロセスを可視化し、活動を推進する力
- ③【連携（ネットワーク）】組織内外の調整や、地域や組織や人の力をつなぎ、協働を進める力
- ④【リソースの把握・活用】日本語教育のリソースを把握し、課題に応じて適切に活用する力
- ⑤【方法の開発】「生活者としての外国人」に適した日本語教育の方法を開発する力

2. 地域日本語教育コーディネーター研修の講師及び事例報告者

○平成22年度

（1）講師（五十音順、敬称略）

品田潤子（公益社団法人国際日本語普及協会 日本語授業部コーディネーター）

山田泉（法政大学 教授）

米勢治子（東海日本語ネットワーク 副代表）

（2）事例報告者（五十音順、敬称略）

土井佳彦（とよた日本語学習システム システム・コーディネーター）

堀永乃（財団法人浜松国際交流協会 チーフコーディネーター）

宮崎妙子（公益財団法人武蔵野市国際交流協会 日本語学習支援コーディネーター）

ヤン・ジョンヨン（群馬県日本語教育支援政策研究会 副代表）

○平成23年度

（1）講師（五十音順、敬称略）

品田潤子（公益社団法人国際日本語普及協会 専任講師）

山田 泉（法政大学 教授）

米勢治子（東海日本語ネットワーク 副代表）

（2）事例報告者（五十音順、敬称略）

各務眞弓（特定非営利活動法人可児市国際交流協会 事務局長）

北川裕子（のしろ日本語学習会 代表）

下村成子（公益財団法人西宮市国際交流協会 日本語コーディネーター）

4. 地域日本語教育コーディネーター研修の内容

○平成 22 年度

項目(時間)	内 容
■研修Ⅰ 平成22年11月29日(月)・30日(火)	
オリエンテーション (0.5時間)	コーディネーターに求められることと、そのために必要な能力等について概観し、研修のねらいを理解する。
実践事例報告① (1.5時間)	地域における日本語教育の実践事例についての報告・検討を通して、コーディネーターに求められることのうち【問題把握・課題設定】【ファシリテーション】【連携(ネットワーク)】に必要な能力について理解する。
実践事例報告② (1.5時間)	地域における日本語教育の実践事例についての報告・検討を通して、コーディネーターに求められることのうち【リソースの把握・活用】【方法の開発】に必要な能力について理解する。
演習① (2時間)	「生活者としての外国人」が日本語を学び、地域社会に参加していくプロセスを分析し、日本語教室を企画・運営するために必要なことについて学ぶ。
演習② (2時間)	日本語教育の様々なリソースの活用の仕方と適切な方法について学び、教室活動の具体的な進め方について理解する。
演習③ (1時間)	「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について理解する。
実践に向けて (1.5時間)	これまでの研修内容を踏まえて実践活動の課題を設定し、効果的な実践活動の進め方について検討する。
ふりかえり (1時間)	研修Ⅰ全体のふりかえりを行う。
■実践活動 平成22年12月～平成23年2月	
実践活動	それぞれの参加者が関わっている現場において、研修Ⅰで設定した実践課題に取り組む。実践活動の成果・課題等について整理し、研修Ⅱで発表を行うための準備をする。
■研修Ⅱ 平成23年3月3日(木)	
実践活動発表 (3時間)	平成22年12月から平成23年2月までに行った実践活動の成果を発表し、相互に学ぶ。
全体ふりかえり (2時間)	研修Ⅰ、実践活動、研修Ⅱを通して学んだコーディネーターに必要な能力について理解を深める。

○平成 23 年度

項目(時間)	内 容
■研修Ⅰ 平成23年11月14日(月)・15日(火)	
オリエンテーション (0.5時間)	本研修のねらいと内容について理解する。
基調講演 (1時間)	文化審議会国語分科会日本語教育小委員会における審議を踏まえて、地域日本語教育コーディネーターに求められることについての講演を行う。
実践事例報告 (2時間)	それぞれの地域の日本語教育における現状と課題や、コーディネーターの取組についての報告を行う。
演習① (2時間)	基調講演・実践事例報告を踏まえて地域日本語教育コーディネーターの役割について整理する。また、参加者同士で所属団体や地域における現状と課題について情報交換を行うことによって、以後の演習に資する課題の共有や関係作りを行う。
演習② (2時間)	それぞれの地域の日本語教育における課題解決の観点と、日本語教育のリソースや方法の概要について整理する。
演習③ (2時間)	テーマや課題毎にグループに分かれて、課題解決に向けた今後の発展的なプランづくりのシミュレーションを行う。
実践に向けて (1時間)	これまでの研修内容を踏まえて実践活動の課題を設定し、効果的な実践活動の進め方について検討する。
ふりかえり (1時間)	研修Ⅰ全体のふりかえりを行う。
■実践活動 平成23年11月～平成24年2月	
実践活動	それぞれの参加者が関わっている現場において、研修Ⅰで設定した実践課題に取り組む。実践活動の成果・課題等について整理し、研修Ⅱで発表を行うための準備をする。
■研修Ⅱ 平成24年3月2日(金)	
実践活動発表 (3.5時間)	平成23年11月から平成24年2月までに行った実践活動の成果を発表し、相互に学ぶ。
全体ふりかえり (2時間)	研修Ⅰ、実践活動、研修Ⅱを通して学んだコーディネーターに必要な能力について理解を深める。